

桐原・西原の遺跡地図

● 遺跡 (平成15年3月現在)
この他にも未発見の遺跡があるものと思われます。



猪丸・高橋家出土の備蓄銭 (中世)



尾続経塚出土の経石 (江戸時代)

- これまでに発掘調査した地点は埋め戻され、今は見ることはできません。
- 各遺跡の詳細は、『上野原町誌 (下巻)』・『山梨県史 資料編1 原始・古代』や各遺跡調査報告書をご覧ください。
- 出土品や記録写真等は上野原市教育委員会が保管しています。

桐原・西原の埋蔵文化財

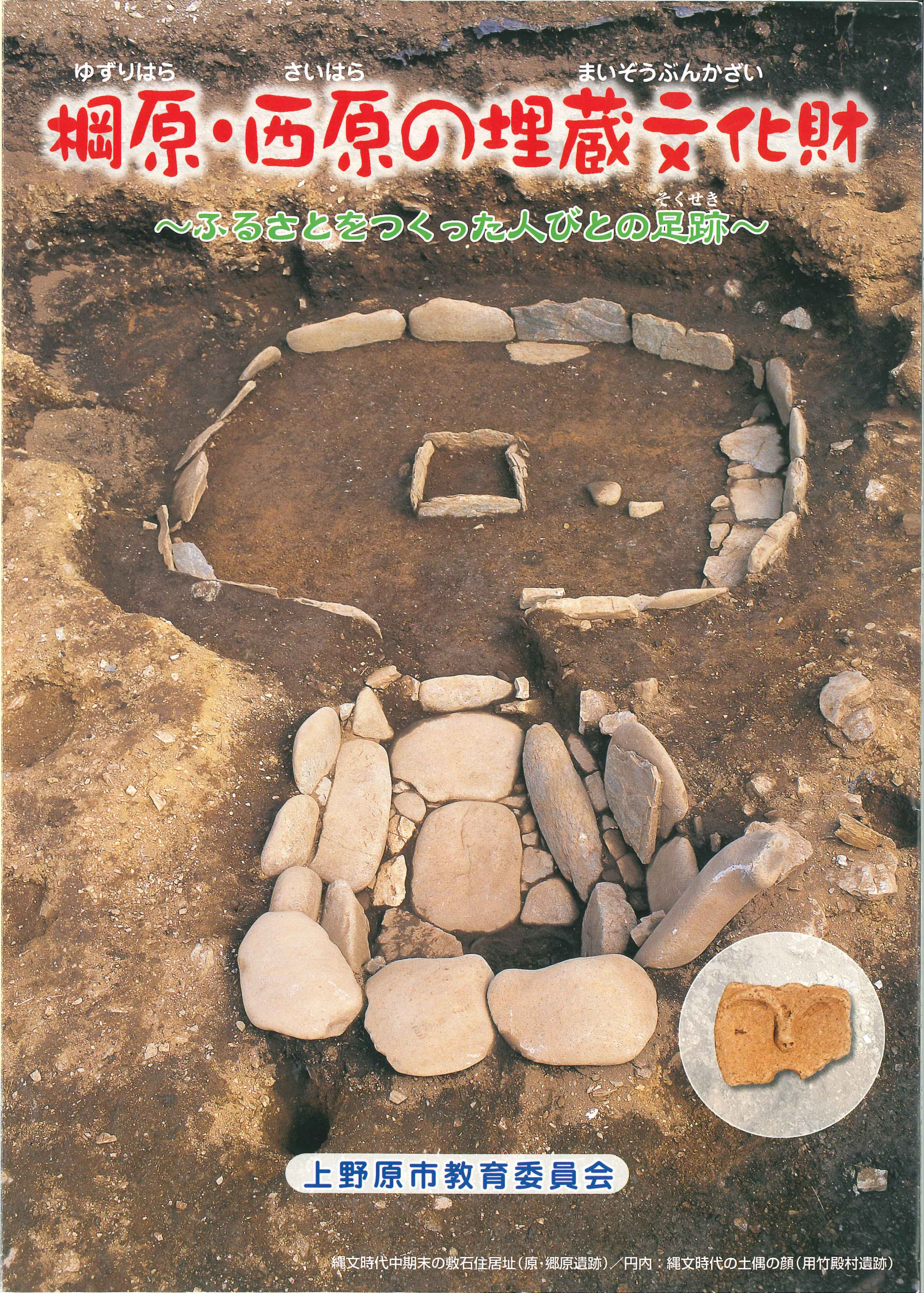
平成15年 3月25日 初版発行
平成19年 3月30日 二版発行

編集・発行 上野原市教育委員会
〒409-0192 山梨県上野原市上野原3832
電話 0554-62-3409 FAX 0554-63-4772

本書は県営中山間地域総合整備事業の一環で作成しました。

桐原・西原の埋蔵文化財

ゆずりはら さいはら まいぞうぶんかざい
～ふるさとをつくった人びとの足跡～

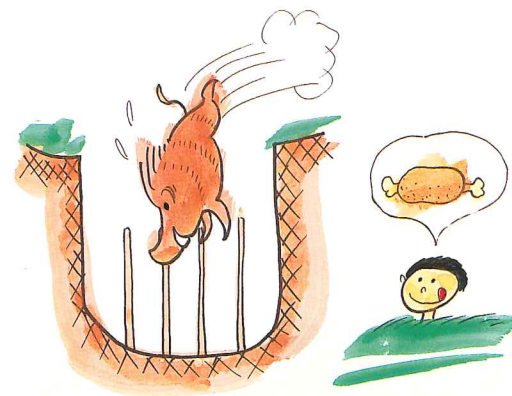


上野原市教育委員会

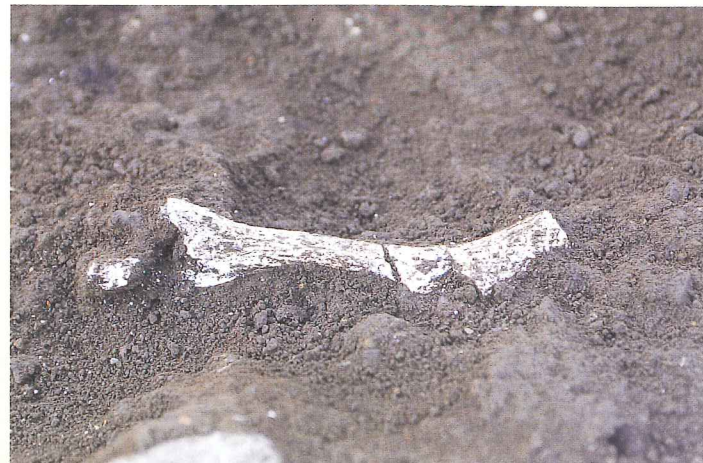
縄文時代中期末の敷石住居址 (原・郷原遺跡) / 円内: 縄文時代の土偶の顔 (用竹殿村遺跡)

桐原地区

縄文時代の遺跡が多数ある。このうち多くの遺跡で、落とし穴や石製の矢じりなど狩猟に関わるものが出土し、新屋原遺跡では竪穴住居址が発見されている。このことから、川沿いの段丘上や斜面地に、縄文人の集落や狩り場が点在していた様子がうかがえる。この他、中世の砦と推定される城山の城山や、江戸時代の村人たちが幸せを願った場所とされる経塚（尾続経塚遺跡）がある。



落とし穴の想像図



鹿のツノ（長さ15cm）。土器片に混じり、焼かれた鹿のツノや骨が多数出土した。縄文時代中期～後期。用竹殿村遺跡



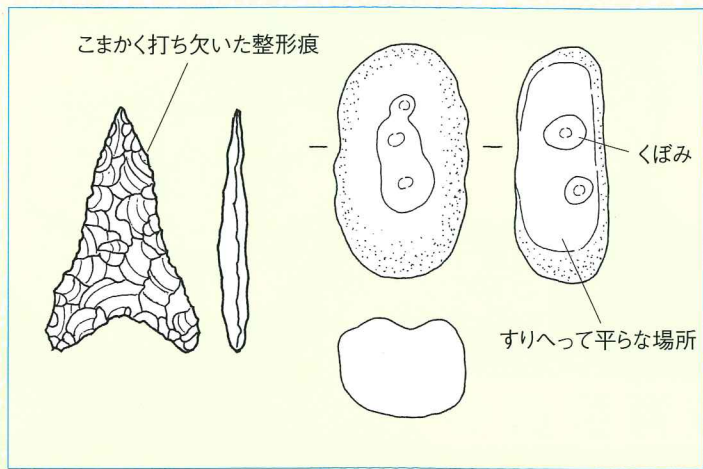
埋設土器（高さ36cm）。縄文時代後期。用竹殿村遺跡



土器の出土状況。縄文時代早期。穴沢遺跡



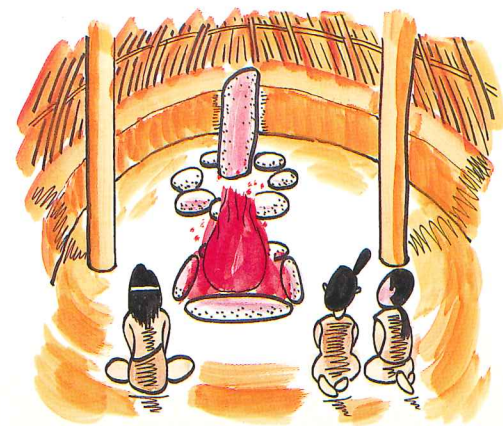
落とし穴（長軸1.5m・深さ1m）。堅いローム層を掘り込んで作られている。縄文時代早期～前期。新屋原遺跡



穴沢遺跡出土のおもな石器。左：矢じり（76個37%）、右：くぼみ石（94個46%）。縮尺：左原寸大、右1/3。縄文時代。

西原地区

5ヶ所に縄文時代の遺跡がある。このうち、原・郷原遺跡は最大規模で、平成9年～10年の発掘調査で縄文時代中期末～後期前半にかけての集落址が発見された。床に大きな川原石を敷き詰めた住居址が3軒あったが、1号住居址は立石を備えた見事な作りで、祈りをささげる神聖な場所であった可能性もある。2号住居址は火災等で焼失したようで、柱と思われるクリの炭化材や、つぶれた注口土器が床に残されていた。



住居内部（縄文時代）の想像図



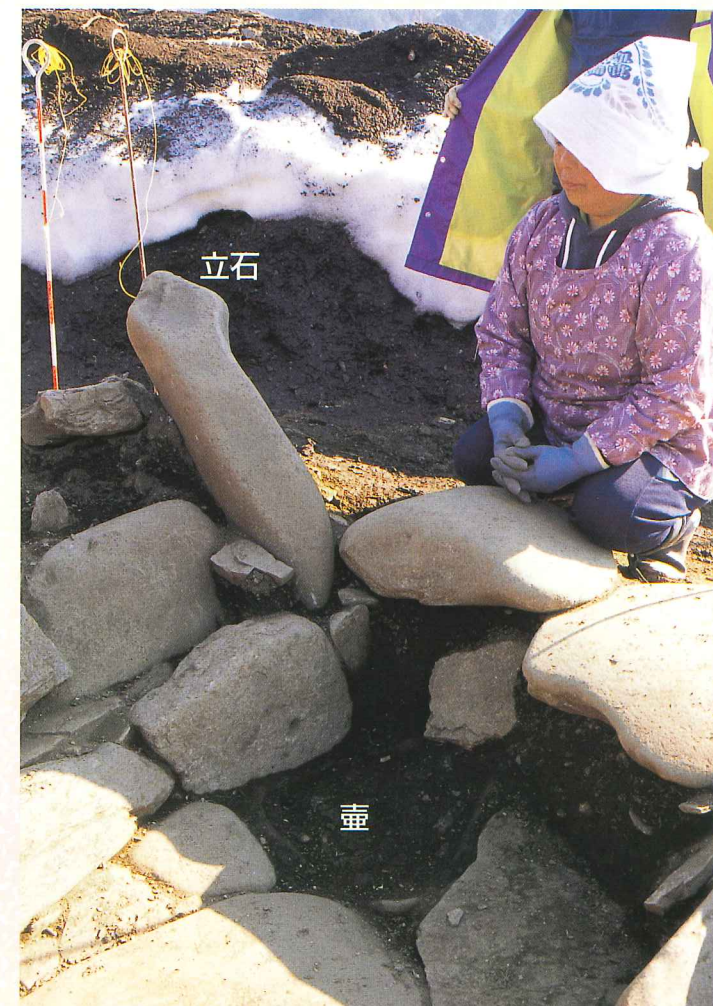
1号敷石住居址（長軸5m）。表紙と同じもの。縄文時代中期末。原・郷原遺跡



5号配石（一辺75cm）。内部に焼けた土がたまっていた。縄文時代中期末～後期。原・郷原遺跡



2号敷石住居址（東西4.3m）。柱穴列の内側に敷石がある。縄文時代後期。原・郷原遺跡



1号敷石住居址の立石（高さ75cm）。根元に広口の壺が埋められている。縄文時代中期末。原・郷原遺跡



左：深鉢（高さ40cm）、右：注口土器（2号敷石住居址出土）。いずれも縄文時代後期。原・郷原遺跡